

第18回 菊池川の日スペシャル



芸能界きってのアウトドア派
清水國明がやってくる!!!

菊池市ほか8市町で構成する菊池川流域同盟の事業の一環として、「菊池川の日」のイベントが開催されます。この事業は、流域の9市町による河川浄化を進め、流域の連帯の強化と水の大切さを住民にアピールするために実施されているものです。

今年は、テレビやラジオの司会、新聞・雑誌への執筆など幅広く活躍し、芸能界きってのアウトドア派として知られている清水國明さんの講演会が開催されます。

市民の皆さんのご来場をお待ちしています。

とき 10月7日(日) 開場・正午/開演・午後1時
ところ 植木町生涯学習センター(植木町役場隣)

申し込み方法

菊池市役所環境課、各総合支所民生課窓口にて入場整理券を配布します。

入場整理券の配布は、9月3日(月)から開始します。先着順なので、早めに申し込みください。

問い合わせ先

環境課 または 菊池川流域同盟事務局
(玉名市役所環境保健課) ☎0968 (75) 1118

- 午後1時40分～ Viento 水物語ライブ
- 午後2時20分～ スローライフ実践者「清水國明講演会」借りてる地球の使い方～この美しい森と川と湖を守るために～
- 同時開催展示コーナー
 - 廃油石鹸展示コーナー
 - 菊池川ふれあいコーナー
 - EM発酵液づくり体験コーナー



阿蘇を拠点に活躍中の「Viento」



山鹿市 山鹿町 植木町 菊池市 泗水町

- プログラム
 - 9:00～9:20 マイバッグ音楽隊
 - 9:20～9:30 あいさつ・感謝状贈呈
 - 9:30～
 - ・泗水きれいな水と命を守る会(劇)
 - ・小学生による分別体験
 - ・ファイヤーフライファンタジー(グランパワ-ヒーノクニによるショー)
 - 10:30～13:00 フリータイム(催し物がたくさんあります)
 - 12:00～13:00 リサイクル自転車の抽選会、お楽しみ抽選会
- 催し物
- 体験コーナー
 - ・種子を使ったプロ-チ作り(シードアート)
 - ・廃油石鹸作り
 - ・小枝・結束バンドを使った箸置き作り
- 展示コーナー
 - ・リサイクルフロ-掲示
 - ・太陽光発電(資料・パネル等)掲示
- その他
 - ・果物・野菜等の販売
 - ・フリーマーケット

今年も菊池環境保全組合の構成市町である菊池市、合志市、大津町、菊陽町、菊池環境保全組合、各種団体の協力により開催します。

今年メインテーマは「分ければ「資源」ませれば「ごみ」」サプテ-マを「マイバッグの普及」としてします。住民一人ひとりがごみに関心を持ち、ごみを発生源で絶つ(リデュース)、ごみを減らす(リデュース)、繰り返し使う(リユース)、再び資源として利用する(リサイクル)の4Rに取り組んでいきます。

分別をきちんとすることにより、ごみの減量化につなげ、循環型社会の実現を目指します。

とき 9月6日(日)

第5回 菊池管内環境フェア

今年も菊池環境保全組合の構成市町である菊池市、合志市、大津町、菊陽町、菊池環境保全組合、各種団体の協力により開催します。

今年メインテーマは「分ければ「資源」ませれば「ごみ」」サプテ-マを「マイバッグの普及」としてします。住民一人ひとりがごみに関心を持ち、ごみを発生源で絶つ(リデュース)、ごみを減らす(リデュース)、繰り返し使う(リユース)、再び資源として利用する(リサイクル)の4Rに取り組んでいきます。

今年メインテーマは「分ければ「資源」ませれば「ごみ」」サプテ-マを「マイバッグの普及」としてします。住民一人ひとりがごみに関心を持ち、ごみを発生源で絶つ(リデュース)、ごみを減らす(リデュース)、繰り返し使う(リユース)、再び資源として利用する(リサイクル)の4Rに取り組んでいきます。



昨年の「菊池管内環境フェア」

- 空港リムジンバス
 - 熊本駅⇨阿蘇くまもと空港
 - ①「産業道路・国道道路」ルート 10月1日(月)～10月7日(日)
 - ②「産業道路・白山通り」ルート 10月8日(月)～10月14日(日)
 - ③「平成けやき通り・東バイパス」ルート 10月15日(月)～10月21日(日)
 - 空港シャトルバス
 - 光の森駅と肥後大津駅⇨阿蘇くまもと空港
 - ①「光の森駅」発着 10月22日(月)～10月28日(日)
 - ②「肥後大津駅」発着 10月22日(月)～10月28日(日)

ふかるとを知らう シリーズ 14 後藤官平(実義)

後藤官平(一八三四～一九六六)は、天保五年五月、木村啓左衛門の次男として、合志郡村吉(現・菊池市泗水町)に生まれ、後藤氏を継ぎ、五人娘の次女に養子直七を配して、後藤家を継がせました。

後藤官平は、「幼くして、父の教えを受け」、安政元(一八五四)年、二二歳の時「藩の天学・数学者範牛島氏」に師事。「常に心をこの道にひそめ、田畑に出づるにも、問題紙を笠に結びなどして携へ」、また「夜のほのぼのと明け行くをも知らず、数理を研究」するなど、昼夜を分たず寝食を忘れて励み、「学術門下に並ぶ者なく、知れる者聞くものから敬重」されました。文久元(一八六一)年に、「算術秘奥の免許、曆術・測量術皆伝の証状を得、官の恩賞にも預り」、明治二(一八六九)年には、「算術拔群、心念厚く、同門の賞後進誘掖の効」により、郡宰直触・佩刀許可、士族に列せられています。

肥後藩主の軍艦「萬里丸」購入の際、乗組の内命や恩師牛島氏の勧誘がありました、「義父母の養、すて難き」と辞退し、

家業の傍ら、算術を教え、郷の「算学授方」になり、「常に進取の念をいだき、洋式を独修して、算術・代数・幾何学の奥義を究め」、吉富・田島の小学校教師を歴任、「小学高等算術科教授免状」を授与されました。「後藤官平先生墓誌」

その後、郡内外から後藤官平の教えを乞う者が絶えず、明治二(一八八八)年一月、数学専門の私塾「直整塾」を設立、同二十九年一月、官平が死去までの八年間でしたが、門人五〇〇余人といわれています。その中には、工藤左一(初代合志義塾長)・西佐一郎(初代泗水村長)・増田敬太郎(警神)・齋藤長八(県議)・古市秀虎(田島村議)・大塚惟一・後藤実平・伊牟田直勝がいました。

(文責) 社会教育指導員 堤 克彦



後藤先生墓(富の原一区 養生園東隣)

文教菊池の人々(江戸期の人物篇)

人権同和教育シリーズ 28 やさしい心を

宮田由貴 泗水中3年

人と人とは、永遠一緒の感情を持つ仲間。私は、なんとなくだけで、そう思う。人は、死ぬまで自分以外の人と一緒に生きていく。いくら一人暮らしといっても、会社や学校にも人はいるし、食べ物や飲み物も人が作っている。私たちは、なにかといって自分以外の人とつながって生きていけると思う。人はきつと一人で生きていけない生き物なんだろう。なのに、そんな仲間を傷つけていいのだろうか。あなたなら、どう、思うだろう。

今の状況は、はっきりいって人が傷つくことや人の涙がきつとあちこちにあると思う。学校でも、いろんなことがあった。自転車にいたずらがしてあったり、くつ箱に悪口を書いた紙が置いてあったり、変なイメージを作りあげて悪口を言ったり、ウワサを流したりといったことがあった。やった人は、遊び半分や面白がってやったのかもしれない。でも、やられた人は、ずっと忘れられないと思う。それが、たとえほんの小さなことだとしても。私も、いろんなことを言われたりしてイヤな思いを何度もしたから分かる。自分にとってキツイことや苦しいことは、人には言えないと思う。だからこそ、最初から、そんなイヤな気持ちを人々をなくさなければいけない。でも、それができないなら、その相手の気持ちを考え、てあげればいいのか。そして、その人をイヤな気持ちにさせてしまった人は、「ごめんね」その一言と少しのやさしい心をその人に伝えればいいのか。そして、そのことを忘れないならきつと、やさしい心を持つてると思う。その人の気持ち、分かればきつと、「人を傷つけるようなことはいらない」と思えると思う。それは、男女・年齢関係なく思えることだ。

私に、「イヤなことがあったんだ」と言ってくれた人がいた。きつとそれを言うには、いろんなつらい思いがあったと思う。だから一日でも早くいじめや差別というものをなくしたい。

人権と言っても、たぶん学校で学ば人権は、ほんの少しのことなのかもしれない。学校で、人権集会があった。その中で一番心に残ったのは、三年生の発表だった。自分の目標を決めて、その理由など

を発表していた。その中でも、一番すごいなと思った人がいた。その人は自分がつらかったことなどを集会の前で発表したからだ。それは、とても勇気があることだ。その人の発表で、言葉の重さがより分かった気がした。頑張れという言葉は、いままでつらくて、きつかつた人には、追い詰める言葉といふこと。逆にプレッシャーになってしまおうということ。使い方をまちがえてはいけないうこと。今は、誰でも傷つような言葉などが、そこらじゅうに広がっていると思う。だけど、それをなくしていけないと、いじめもなにもなくならない。

一人ひとりが、今よりずっと人権を知り、考えていくことが大切だ。一人ひとりが、やさしい心を持てればいいなと思った。

